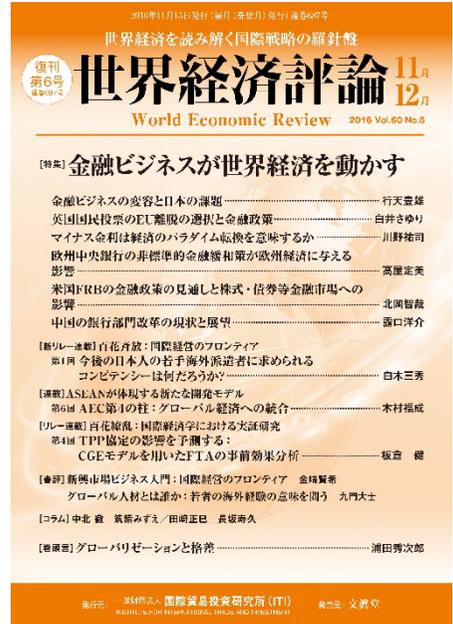


本論文は

世界経済評論 2016年11/12月号

(2016年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

新興市場ビジネス入門 ：国際経営のフロンティア

青森公立大学経営経済学部 専任講師 **金崎 賢希**



[著者] 今井雅和 (いまい まさかず)
専修大学経営学部・大学院経営学研究科教授
[発行] 中央経済社, 2016年5月
[判型] A5判, 200頁
[定価] 本体 2300円+税

本書は、国際経営を学ぶ学部・大学院生向けに書かれたテキストだが、類書にはない3つの特徴がある。すなわち、第一に、新興市場における事業活動を意識し、第二に、一人の著者がフィールドワークをもとに統一的な視点から論じ、第三に、グローバルな競争優位の構築に向け新たな知見を提供している点である。

本書第1部(第2～5章)では、海外展開に際し企業が直面する意思決定(どこに、どの時期、どの形態で進出するのか、誰とパートナーを組み、いかに関係を築くのか、また受入国における事業の進展を

マネジメントしつつ、本国や第三国の事業との関係はいかに築くのか)を整理している。これらの点について、伝統的な考え方では、すでに本国で優位を築いた企業を仮定し、優位をどこでどのように発揮すべきか、という観点から議論が行われてきた。

しかし、筆者は、新興市場で起きているダイナミックな動きに注目すると、また別の解が見つかるという。今日、重要な経営資源は一定地域に偏在せず、新興市場を含め世界中に分散している。先進国とは異なる環境のもとで異なるタイプのイノベーションが生まれている。そこで、第2部(第6～9章)で、新興市場特有の制度的環境の中でリスクを抑え、そこに眠る経営資源を発掘し、グローバルに活用するための新たなビジネスモデルを検討している。

第3部では、一見すると捉えどころのない新興市場「群」について、主に立地資源と海外子会社が埋め込まれている制度的環境の観点から、その共通点と差異点を明らかにしている。冒頭の第9章を理論的説明に充て、第10～14章でとくに東アジア、南アジア、アフリカ、イスラム諸国、BOP市場の特徴について説明し、第15章で新興市場における新たなタイプのイノベーションを紹介している。コラムも充実しており、味の素、ユニチャームなど企業の他、国や産業のケーススタディが含まれている。

筆者は、実務と研究双方の立場から、約30年にわたり新興市場に関わってきた。その成果はすでに『新興大国ロシアの国際ビジネス』(2011年国際ビジネス研究学会賞)に収められているが、こうしたフィールドワークが本書のベースとなっている。併せ読むことで、より深い知見を得ることができ、新興市場への挑戦意欲が湧いてくるだろう。近年、若手社員の海外勤務意欲が低下する中で、本書のようなまさにフロンティアを探求するテキストは必須で、詳読に値する。(かねざき まさき)

書評委員について

世界経済評論書評委員は、最近1年間ほどの間に出版された書物並びに自らを含めた評者の選定を行い、各号の書評欄の寄稿を担当します。次の14氏が書評委員です。石川幸一、猪口孝、馬田啓一、浦田秀次郎、江夏健一、葛西敬之、橘川武郎、木村福成、朽木昭文、清水一史、白木三秀、田中素香、松下満雄、安室憲一の14氏。